

(第1号様式)

持続性の高い農業生産方式導入計画 (変更) 認定申請書

新規認定の場合は
抹消してください。

平成 ○○年 ○月 ○日

京都府知事 様

住所 □□□□□□ 1-1
氏名 △△ ※※ 印

持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律（平成11年法律第110号）に基づき
別添のとおり導入計画の (変更) 認定を申請します。

なお、本申請書記載内容については、○○市(町村)への情報提供に同意します。

情報提供に同意されない場合は
抹消してください。



持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画

(目標：平成〇〇年度)

原則5年後です。

1 持続性の高い農業生産方式の導入に関する目標

(1) 農業経営の概況

	水田	普通畑	樹園地	その他	合計
経営面積	30 a	20 a	a	a	50 a
	借入地面積及び受託地面積を含みます。				
労働力	農業従事者 男 1 人 (うち専従者 1 人) 女 1 人 (うち専従者 1 人)				

認定できる作物は、
導入指針に記載している作物のみです。
認定証の記載について、
特に希望がある場合は、御相談ください。

<例>
導入指針 → ネギ
認定証の記載 → 九条ネギを希望

対象作物の作付面積の
概ね5割以上を
エコファーマー技術で
取り組む必要があります。

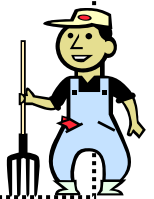
(2) 作物別生産方式導入計画

	1年目	2年目	3年目	4年目	目標年(〇年)
九条ネギ	20.0 a	20.0 a	40.0 a	40.0 a	40.0 a
	40.0 a	40.0 a	40.0 a	40.0 a	40.0 a
生産方式導入作物	<p>上段：エコファーマー技術で取り組む作付面積を記入してください。 下段：その作物の作付面積の合計を記入してください。</p> <p>20aの畑で2回栽培する計画です。</p> <p>エコファーマー技術を導入しない農作物の作付面積の合計を記入してください。</p> <p>延べ面積を記入してください。(小数点以下は1位まで)</p>				
小計	20.0 a	20.0 a	40.0 a	40.0 a	40.0 a
	40.0 a	40.0 a	40.0 a	40.0 a	40.0 a
その他作物	30.0 a	30.0 a	30.0 a	30.0 a	30.0 a
合計	70.0 a	70.0 a	70.0 a	70.0 a	70.0 a

生産計画

- ◆エコファーマー技術を導入しない
水稻 … 30a (その他作物欄に記入)
- ◆エコファーマー技術を導入する
九条ネギ(年2作) … 20a × 2作 = 40a (延べ面積を計画欄に記入)

(1年目、2年目は一部での導入ですが、3年目以降は2作ともエコファーマー技術を導入する計画です。)



品目ごとに導入指針を
確認してください。

上 段：目標年の数値です。
()内：現行の生産方式における量・回数です。

(3) 生産方式の内容

作物名	収量	現行の生産方式と導入する生産方式の内容	資材の使用量・回数
	現状	有機質資材施用技術 堆肥等の有機質資材の施用時期、施用方法、C/N比等を記入してください。また、土壌診断の実施時期についても併せて記入してください。	t/10a kgN/10a t/10a) (kgN/10a)
	kg/10a	化学肥料低減技術 導入する技術の具体的な内容、施用する肥料等を記入してください。	1作当たりの化学肥料由来の窒素の総投入量を記入してください。kgN/10a (kgN/10a)
	目標	化学農薬低減技術 導入する技術の具体的な内容、実施時期、実施方法等を記入してください。	1作当たりの成分使用回数を記入してください。回 (回)
	kg/10a		
記入例	現状	有機質資材施用技術 ＜現行＞有機質資材は施用していない ＜導入＞たい肥等有機質資材施用技術 春に実施する土壌診断に基づき、作付けの2週間前までに牛ふんたい肥（C/N比20）を施用する。（2作に1回）	2 t/10a 30 kgN/10a (0 t/10a) (0 kgN/10a)
		化学肥料低減技術 ＜現行＞化学肥料を施用している ＜導入＞有機質肥料施用技術 基肥・追肥ともに有機質肥料を施用する。 基肥・・・魚粕 追肥・・・なたね油粕	20 kgN/10a (30 kgN/10a)
	kg/10a	化学農薬低減技術 ＜現行＞マルチ栽培（黒色マルチ） ＜導入＞機械除草技術 被覆栽培（べたがけ栽培）	10 回 (15 回)
	目標		
九条ネギ	2,500		
	kg/10a		
	2,600		
	kg/10a		

現状の収量は、
過去5年間の平均
を記入してください。

5年後の目標数量を
記入してください。

1作当たりの
施用量及び窒素量
を記入してください。

1作当たりの
化学肥料由来の
窒素の総投入量
を記入してください。

1作当たりの
成分使用回数を
記入してください。

新規で認定申請される方のうち、
すでにエコファーマー技術を実践されている場合は、
3つの導入技術のうち、1つ以上に新たな技術を導入することで認定が可能です。
また、認定の更新を申請される方も同様の扱いとなります。

(4) 農業所得の目標

	現 状	目 標
生産方式導入作物	2,400 千円	2,500 千円
その他作物	900 千円	900 千円
合 計	3,300 千円	3,400 千円

農業所得 = 販売額 - 必要経費
(必要経費・・・種・苗代、肥料代、農薬代、資材代、出荷手数料など)

2 1の目標を達成するために必要な施設の設置、機械の購入その他の措置に関する事項

(1) たい肥等利用計画

	たい肥等有機資材の種類	自 給	購 入	備 考
現 状	牛ふん堆肥	0 t	1 t	(有) ××産業 原料：牛ふん、稲わら
目 標	牛ふん堆肥	0 t	4 t	(有) ××産業 原料：牛ふん、稲わら

有機質資材の一般的な名称
(例：牛ふんおがくず堆肥)
を記入してください。

有機質資材の入手先、
主な原料を記入してください。

(2) 機械・施設整備計画

現 状		計 画		
種類・能力	台数	種類・能力	台数	実施時期
トラック (1t)	1台	草刈機 (6ps)	1台	平成〇年△月
耕耘機 (7ps)	1台			
動力噴射機 (20%)	1台			

機械・施設の一般的な名称と
その能力を記入してください。
(馬力、植付け条数、面積等)

整備計画のある機械・施設は、
資金の調達計画についても
記入してください。

機械・施設を整備する計画がない
場合は、省略してください。

機械・施設を導入する
年月を記入してください。

(3) 資金調達計画

資金使途	資金種類	金 額	償還条件	実施時期	備 考
草刈機 (6ps)	自己資金	200 千円 (100)	なし	平成〇年△月	
		200			

・自己資金
・制度資金(資金名を併記)
・その他
を記入してください。

補助金等の助成措置が
ある場合は、
括弧書きで記入してください。

償還期間(据置期間を含む)
及び据置期間を
記入してください。

3 その他

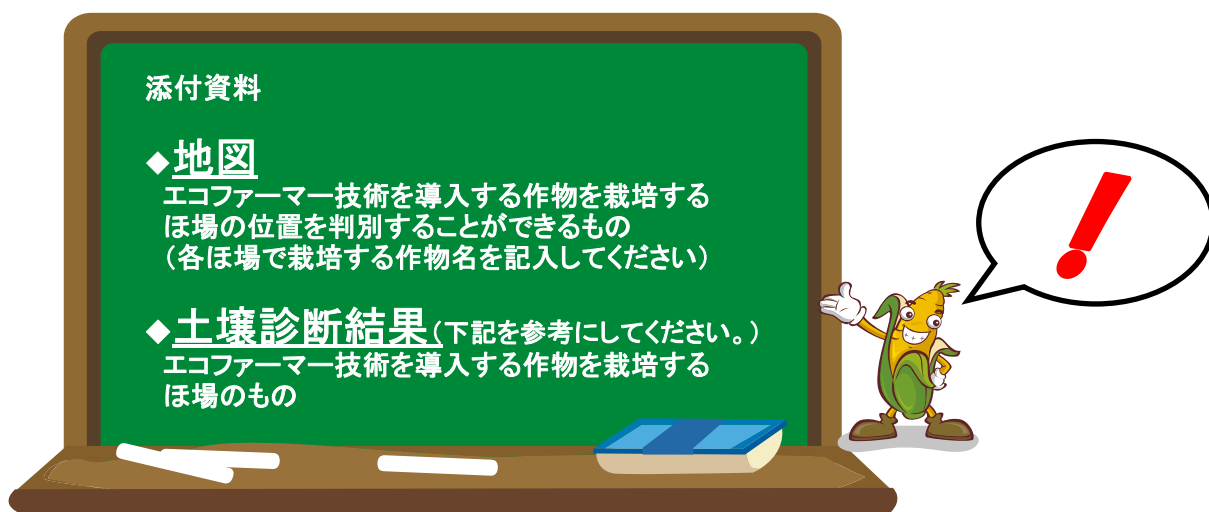
- ・たい肥については2作に1回施用する計画である。
(土壌診断を行い、効果的な施用を行う。)
- ・肥料については、作物の生育タイミングを見極め、必要量を施用するよう心がける。
- ・病虫害防除については、土着天敵の観察技術を磨くなど技術向上に努め、化学肥料の低減を図りたい。

導入指針に土壌の性質を改善するために実施することが必要な措置に関する事項が定められている場合は、当該措置の具体的な内容、実施方法等を記入してください。

その他、注意する事項などがあれば記入してください。

最後にもう一度ご確認ください・・・

技術、経営能力、事業・資金計画などから見て、実現性が高い計画内容になっていますか？
添付資料も忘れずに準備してください。



土壌診断項目

品目	必須分析項目	備 考
水稲	pH、腐植	
畑作物	pH、 EC、 腐植	
果樹		
野菜・花き (露地)		
野菜・花き (施設)	pH、EC、 腐植、 硝酸態窒素	施設栽培では、たい肥の過剰を避けるため、交換性カリと有効態リン酸も診断が望ましい。
茶		



※腐植については、陽イオン交換容量で代替え可能です。